

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）は、薬学・栄養学・化粧品学分野の学問的基盤に関連した、専門性の高い能力および広い視野と高い興味を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。

本研究科薬科学専攻（博士前期課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士（薬科学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会でリーダーとして活躍できる能力
- 薬科学の素養を身につけた高度専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 医薬品、化粧品（化粧品）成分、食品成分、生活化学用品による生体作用を、最新の生命科学の進展の成果に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した化粧品（化粧品）の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した機能性食品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した生活化学用品の開発・研究・情報提供、健康と医薬品を政策面・管理面から広く評価・実践、のいずれかができる能力
- 薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、人々の健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）では、それぞれの専門分野（基礎薬学、化粧品機能、食品栄養機能、医薬政策管理）において、グローバルな視野を有し高い専門性を身につけた高度専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端薬科学特論、総合薬科学演習を含む各分野の特論・演習を選択・必修科目として、高度で専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野をもち、社会の維持・発展に寄与する専門職業人を養成します。
- 特論演習では、それぞれが専門とする分野において求められるスペシャリストとしての高度な知識と技能の修得を目指します。

- 修士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションをとおして課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させることにより高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士前期課程）では、基礎薬学分野、生体防御分野、香粧品機能分野、食品栄養機能分野および医薬政策管理分野において、以下に示すいずれかの学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 自然科学における基本的な知識を発展させ、グローバルレベルで研究推進能力を人々のために活用しようとする強い意欲のある人
- 薬学的視点に立って、安全性を考慮した医薬品、香粧品（化粧品）、機能性食品、生活化学品の開発、製造、研究、情報解析に関して専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある人
- 薬学分野のみならず、薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置する Pharma-Nutrition 分野（薬科学分野）にも立脚した薬科学の学問領域を発展させたいと思う意欲のある人

期待する能力：知識・専門性

- 薬科学専攻（博士前期課程）において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
- 医薬品や健康に関連した政策や経営学に興味をもてる人
入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：卒業研究、英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学、経営学、公衆衛生学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えると同時に、倫理的な態度をもってそれらの解決に意欲的に努力する人